

特集

子どもと動き

体で遊ぼう〜何でも表現〜

栗原知子

子どもたちは、本当に体を動かすのが好きだなあ
と思います。小学校に入り、一年生、二年生と大き
くなってきても、じっと座っているのが難しい子は
珍しくありません。

学校に来るのは勉強するためというよりは友達と
遊ぶため？ 逆に言うと、そのこと、つまり友達と
かかわって体を動かして遊ぶことが、この時期の子
どもたちにとって重要な学習と言えるのではないで
しょうか。

また、見つけた物にすぐなりきって楽しめるのも
この時期の子どもたちのいいところ。何にでもどん
どん変身してしまいます。動きでいろいろなことを
表現しようとしているのです。気がつけば、生活の
中には表現の材料があふれています。

そんな子どもたちの好きな学習の一つ、体育。私
の勤務する小学校では「からだ」という名称で、少
し幅を広げた分野としてとらえています。その「か
らだ」の時間も含めた学校生活で、小学校一年生の

特 集 子 ども と 動 き



▲写真1：広げて投げたらどうなる？



▲写真2：お腹につけて落とさないように走るんだ



▲写真3：踏んづけられたら痛いよお

子どもたちが生き生きと活動している様子を、少し
お話ししようと思います。

新聞紙と遊ぼう

たとえば、すぐそこにある新聞紙。
どうやって遊ぼうか？
広げて投げたらどうなる？

「手で取れる、足でも取れる」

「先生、頭でも取れたよ」

「すごい、すごい。背中のにせてる子もいるよ。」

「お腹につけて落とさないように走るんだ」

「手を使わなくても大丈夫、速く走るんだよ」

「後ろ向きにも走れるかな」

「でも、お尻にくっつけて走るの難しい……」

新聞紙になっちゃうこともできるよ。

お友達を新聞紙にして、動かしちゃおう。

「踏んづけられたら痛いよお」

「新聞紙の気持ちかわかるね」

子どもが見つけた動きを大切に、先生の言葉かけや見本で身近な新聞紙から、子どもたちの動きや表現がどんどん広がっていきます。新聞紙の気持ちにも、体を動かすと近づけるのです。

動物のSOEKU

子どもたちが体験したこと、自分で見つけたことは、動きにつながる大切な材料です。

子どもたちが大好きな動物園。春に、遠足で出かけました。何回も来ているのに、子どもたちは大興奮。動物を見るたびに、まねをする子もいます。大人でも、見ているうちになんとなく似たような仕草をしてしまう動物、いませんか？

動物たちは動きの宝庫。まるつきり同じ動きはで

きなくても、四つ足になるだけで、いつもと気分が違います。なりきりたいのが子どもたち。まずは、

ゾウさんの前で、ゾウさんになりきって、すぐポーズ。大きなゾウさんの前に、リュックを背負ったたくさんの子ゾウたちが並んで、楽しんでしまいました（周りのお客さんたちには迷惑ですが）。

それだけで終わらないのが子どもたち。いろいろな動物を見つけてきます。

跳んでる動物、見つけた！

びよんびよん！

あつ、うさぎさん。

ずりずりはつてくるのもいるよ。

へびさん、わにさん、とかげさん。

まねっこするの面白い。

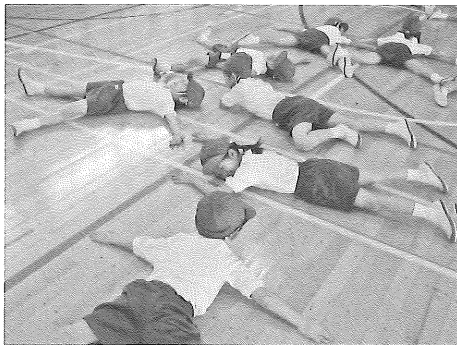
特 集 子 ども と 動 き



▲写真4：ゾウさんになりきってすぐポーズ



▲写真5：跳んでる動物、見つけた！



▲写真6：へびさん、わにさん、とかけさん

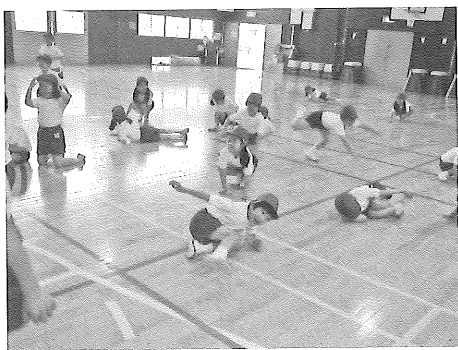
お空をすいすいだれだろう？
鳥さんたちだ、気持ちいい。
一回転もできるんだ。
巣に戻ったら、ひと休み。

がー！
えさを見つけた、

おいしいおいしい、
むしゃむしゃむしゃ！
あっちの方にも行ってみよう。

先生の言葉かけに、子どもが動きで返すキャッチ
ボール。

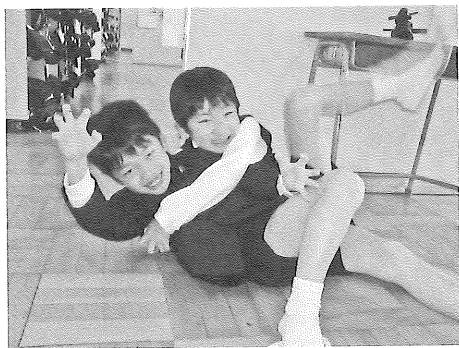
子どもたちが、体をいっぱい使って動けるよう、



▲写真7：巣に戻ったら一休み



▲写真8：がーがー！



▲写真9：動物たちが本から飛びだした

子どもたちからいろいろな動きを引き出して普段やらない動きにも挑戦できるように、楽しい中に大事な「からだ」の学習のエッセンスを。

ここにもいるよ、動物たち

動物シリーズは、まだまだ止まりません。次は、算数の教科書にすぐろくを見つけました。動物たち

がいっぱいの、楽しそうなすぐろくです。ふと、横を見ると……。

おやおや、動物たちが本から飛びだしていますよ。算数の学習が進まないのは困るけれど、ちょっと息抜き、遊んでしまうのもいいかしら。動物になつてすぐろくすると、気分も盛り上がってやる気が出ますね。



▲写真 10：みんなで詩のダンス。
跳んだりはねたり回ったり

詩のリズム、楽しいね

今度は国語の時間です。「あいうえお」を習った
ら、みんなで大きな声を出して、「あいうえお」の
詩を読みましよう。みんなの声が一つになって聞こ
えるよ。なんだか、体も動いちゃう。それじゃあ、
みんなで詩のダンス。跳んだりはねたり回ったり。
ポーズも決めてかっこいい！

声を出すことも動きを楽しむことの一つ。みんな
と一緒に言うために「息を合わせる」大事なことを

体を通して感じます。そろった時の心地よさ、耳で
目で口で、体全部でいっぱい感じ、表現させてあげ
たいです。

大人も一緒にリズムを感じて、楽しんで

小さい人たちほど、リズムの中で生きているよう
に感じます。もちろん、自覚はしていないでしょう
が、心地よいリズムは子どもの動きに欠かせないも
のではないのでしょうか。小学生になっても、学習の
時間だけでなく、子どもの生活全体がリズムと動き
の中で営まれているのではないかと思います。

皆さんも、どうぞ子どもたちのリズムを感じてみ
てください。先生やお母さんの話し方もリズムに
のって、変わってくるかもしれませんね。お互いの
リズムが響きあつて、またすてきな動きが、すてき
な表現が生まれますように。

(お茶の水女子大学附属小学校教諭)